

平成22年度 第1回 臨時倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成22年4月21日(水) 15:00～15:40
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 中会議室
出席委員名	正田 良介、松橋 綾子、青山 克彦、尾方 克久、田村 拓久、大塚 友吉 小櫃 孝夫、植田 敏幸、飯野 和之、齋藤 隆宗、江角 時子、松村 麻利
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	【審議事項】 議題① 倫理審査手順書にて記載されているとおり、課題の実施が4月1日を越えて継続するとき、申請者は、課題の進捗及び成果を示す学術発表の資料を提出し、倫理委員会に報告しなければならないため、継続課題についての審議を行なった。 19課題の申請があり、各研究の継続での妥当性について審議した。 審議結果：承認

平成22年度 第1回 倫理審査委員会議事録・概要

開 催 日 時	平成22年5月12日(水) 15:00～16:15
開 催 場 所	国立病院機構東埼玉病院 中会議室
出 席 委 員 名	正田 良介、新井 秀一、松橋 綾子、尾方 克久、田村 拓久、堀場 昌英、小櫃 孝夫 植田 敏幸、飯野 和之、齋藤 隆宗
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号10-01 栄養管理室長 宮内真弓の申請による筋萎縮性側索硬化症患者における栄養障害の実態調査</p> <p>筋萎縮性側索硬化症(ALS)は、その初期から栄養障害をきたし、また栄養障害が予後不良の危険因子となることが知られている。栄養療法がALSの生命予後に与える影響を明らかにする必要があるが、本邦においてはALSの栄養障害についての調査はまだ不足している。そこで本課題にて、ALS患者において死亡もしくは人工呼吸器装着に至った患者の診療録を、後方視的に検討し、病前・経過中の栄養状態の推移、呼吸機能、嚥下機能の関係、生命予後との関係を、全国規模で実態調査を行う。本課題の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果： 承 認</p> <p>議題② 申請番号10-02 1-1病棟看護師 樋口麻美の申請によるリハビリテーション病棟における安全ベルト使用基準を作成して ～FIMを活用したフローチャートからみえたこと～</p> <p>当リハビリテーション病棟では、転倒・転落を未然に防ぎ患者の安全を守る目的で、患者 家族に承諾を得て医師の指示のもと車椅子乗車時に身体拘束(抑制)が必要と思われる患者に使用している。患者の安全を守るための安全ベルトであるが車椅子に身体を拘束されていることから患者の安楽を最大限尊重しているとはいいがたいのが現状である。そこで機能的自立度評価表(FIM)を活用し安全ベルト使用基準を作成することで必要最低限の安全ベルト使用にとどめ、患者の安全を守り安楽を尊重することにつなげる。本課題の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果： 承 認</p> <p>議題③ 申請番号10-03 3-1病棟看護師 比留間良恵の申請による感染拡大防止のための標準的予防策に関する教育プログラムの効果検証</p> <p>当病棟は、長期療養患者が多く、長期間チューブ類を挿入している。これらを介して、肺炎や尿路感染を起こしている。これまで2001年にメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)に関する意識調査や行動調査を行い、手洗いの必要性やガウン手袋の使用について研究し実践してきた。本課題は、前年度使用した教育プログラムを使用し新採用看護師を教育することで、プログラムについての効果の検証を行い、病棟の感染拡大防止のための標準的予防策の徹底を図る目的である。本課題の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果： 承 認</p>

議題④ 申請番号10-04 教育担当師長 関則子の申請による重症心身障害児(者)施設におけるショートステイ受け入れ体制とショートステイを利用する家族のニーズに対する看護師の認識と関連性

重症心身障害児(者)のショートステイ利用者は年々増加し、施設毎に利用形態も多様化している。医療と福祉の側面から他職種が協働している中で、看護師は利用者のニーズを把握し、QOLの向上を考えた看護を提供する役割を果たし切れているのか組織上の問題も含め、疑問を感じている。そこで、日頃ショートステイを受け入れている看護師にサービス提供の現状と問題意識を、病棟看護師長に管理運営上の問題点を調査し、ショートステイ受け入れ体制とショートステイを利用する家族のニーズに対する看護師の認識との関連を明らかにする目的である。本課題の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑤ 倫理審査手順書にて記載されているとおり、課題が終了したとき、申請者は課題の進捗及び成果を、学術発表等の資料を添えて提出し、倫理委員会に報告しなければならないため、終了課題についての審議を行なった。

25課題の報告があり、各研究の終了での妥当性について審議した。

審議結果：承認

平成22年度 第2回 倫理審査委員会議事録・概要

<p>開催日時 開催場所</p>	<p>平成22年7月21日(水) 15:00～16:35 国立病院機構東埼玉病院 中会議室</p>
<p>出席委員名</p>	<p>正田 良介、新井 秀一、松橋 綾子、青山 克彦、尾方 克久、田村 拓久、堀場 昌英、大塚 友吉、小櫃 孝夫、植田 敏幸、飯野 和之、齋藤 隆宗、江角 時子、松村 麻利</p>
<p>議題及び審議結果を含む主な議論の概要</p>	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号10-05 リハビリテーション科医師 和田彩子の申請によるDuchenne型筋ジストロフィーにおける呼吸器使用状況と摂食嚥下障害との関係 Duchenne型筋ジストロフィー(DMD)は、進行性の疾患であるが、近年、人工呼吸器療法の普及やその他の治療法、管理法の進歩により平均寿命が以前に比べ延長しており、摂食嚥下障害の存在が注目されている。そこで、DMDの摂食状況と年齢呼吸器装置との関連について調査を行う。本課題の妥当性について審議した。 審議結果：承認</p> <p>議題② 申請番号10-06 理学療法士 清水克己の申請による‘Wind-Swept’変形に対する理学療法の効果～Positioning/ROM訓練の観点から～ 重症心身障害児(者)には、ねじれ姿勢に身体が変形する‘Wind-Swept’変形を呈する方が多く、摂食機能や呼吸器、消化機能へ悪影響を及ぼす。さらに身体機能の発達そのものにも影響し、寝返り動作や座位姿勢を困難にし、介護困難の要因ともなっている。今回、‘Wind-Swept’変形を呈する当院の長期入院患者に対し側臥位訓練及び股関節ROM訓練を行い‘Wind-Swept’変形進行に与える影響について後方視的に検討する。本課題の妥当性について審議した。 審議結果：承認</p> <p>議題③ 申請番号10-07 言語聴覚士 伊藤有紀の申請による当院における嚥下造影検査実施患者の摂食・嚥下能力と摂食状況の比較 摂食・嚥下能力と実際の摂食状況に、しばしば乖離がみられる場合があり、これらを区別して評価することは重要である。本研究では、嚥下造影検査を実施した摂食・嚥下障害患者において、「できる」嚥下能力と、「している」摂食状況に相異があるかを調査する。また、摂食・嚥下能力の重症度別・疾患別に分類し、特徴や傾向を後方視的に検討する。本課題の妥当性について審議した。 審議結果：承認</p> <p>議題④ 申請番号10-08 言語聴覚士 池澤真紀の申請による脊髄小脳変性症患者における反復唾液嚥下テストの有用性に関する検討 反復唾液嚥下テストは、誤嚥のスクリーニングとして安全で簡便な方法とし、広く用いられている。本研究では、脊髄小脳変性症患者において、反復唾液嚥下テストと誤嚥との関係を明らかにするため後方視的に検討する。本研究の妥当性について審議した。 審議結果：承認</p>

議題⑤ 申請番号10-09 言語聴覚士 千葉康弘の申請による運動ニューロン疾患患者における反復唾液嚥下テストの有用性に関する検討

反復唾液嚥下テストは、誤嚥のスクリーニングとして安全で簡便な方法とし、広く用いられている。本研究では、運動ニューロン疾患患者において、反復唾液嚥下テストと誤嚥との関係を明らかにするため後方視的に検討する。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑥ 申請番号10-10 栄養管理室長 宮内眞弓の申請による筋萎縮性側索硬化症患者のエネルギー必要量の検討

デュシェンヌ型筋ジストロフィー(DMD)、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、多系萎縮症(MSA)の適切なエネルギー必要量を検討するために携帯式簡易熱量(メタバイン)を用いて安静時エネルギー消費量の測定、身体測定、体重の変化、定期検査で行う血液検査等を用いて比較検討を行い、筋萎縮性疾患患者の栄養管理の指針の一助とすることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑦ 申請番号10-11 栄養士 芳賀麻里子の申請によるデュシェンヌ型筋ジストロフィー患者の必要エネルギー量の検討

デュシェンヌ型筋ジストロフィー(DMD)患者のエネルギー所要量は、身体組成や肺活量に個人差が大きく、健常者にも用いる標準的な評価法で算出することは困難である。今回、診療録から身長・体重・血清アルブミン値・病院食の摂取量を調査し栄養状況の把握を行うとともに、簡易熱量計を用いて安静時のエネルギー消費量を測定して、その結果を用いたDMD患者の必要エネルギー量について検討する。本課題の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑧ 申請番号10-12 栄養士 富井三恵の申請による脳卒中回復期患者における栄養量及び栄養指標の検討

脳卒中急性期患者において安静時エネルギー消費量はHarris-Benedict式より算出した基本エネルギー量の126%に亢進するという報告があるが、脳卒中回復期患者における報告はない。本研究では、携帯用簡易熱量計を用いて安静時エネルギー量を測定し、診療録の採血検査から得た他の栄養指標との検討を行い、脳卒中回復期患者の適正な栄養量を分析する。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑨ 申請番号10-13 栄養士 富井三恵の申請による栄養管理計画書からみた

Duchenne型筋ジストロフィー(DMD)患者の身体特徴及び栄養状態

当院の栄養管理計画書での栄養状態の選別は、体重・身長・BMI・血清Alb・TC・Hb値・体重の変化の有無等により行う。本研究では、栄養管理計画書での栄養状態の選別が患者に適正に判断されているか明らかにし、Duchenne型筋ジストロフィー患者の身体特徴及び栄養状態の調査を行う。また、栄養摂取経路別、呼吸状態別に分析する。本課題の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑩ 申請番号10-14 1-1病棟看護師 岡田里子の申請による慢性疾患患者の健康管理に対するセルフエフィカシーに関する調査

当病棟の入院患者の多くが、主疾患の他に糖尿病や高血圧などの合併症を持っている。疾患の増悪予防のためにも退院後も継続的な健康管理が必要である患者の多く、健康の自己管理を成功させるためには、自己効力感(セルフエフィカシー)が重要である。本研究では、入院中の慢性疾患患者に焦点をあて、健康管理に対するセルフエフィカシー尺度を用いたアンケートを実施し、患者のセルフエフィカシーの状況を明らかにし、今後の援助につなげていくことを目的とする。本課題の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑪ 申請番号10-15 1-1病棟看護師 岸はるかの申請による白衣の交換基準に対する認識調査

感染対策として、処置時には手洗いと適切な個人防護用具を用いて必要な汚染防御をすることが標準予防策である。しかし、白衣の交換基準は定められてなく先行研究にて2,3日で交換することが全体の7割近くを占めている。本研究では、看護師を対象とし白衣の交換基準に対する調査を行い、なぜ毎日交換出来ていないのかを考察し、白衣に関しての感染予防に対する認識を明らかにすることを目的とする。本課題の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑫ 申請番号10-16 3-2病棟看護師 人見公代の申請による埼玉県におけるHIV患者の在宅医療に関する実態調査

当院は、埼玉県のエイズ中核拠点病院に指定され、外来・入院患者とも増加傾向にあり、在宅療養が必要な患者は増え続けている。先行研究でも、福祉施設が安心して患者を受け入れるには、医療機関側のバックアップが欠かせないとされているが、どのような情報や支援が求められているのかについて、本研究によりHIV/AIDSに関しての理解や受け入れ状況の実態を調査し、今後施設と円滑な連携を図る基礎資料とすることを目的とする。本課題の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑬ 申請番号10-17 7-南病棟看護師 鈴木真由美の申請による経管栄養移行期におけるデュシェンヌ型筋ジストロフィー患者の思いに沿った援助の検討
デュシェンヌ型筋ジストロフィー(DMD)患者は、疾患が進行し嚥下障害を生じる。誤嚥や肺炎、胃拡張など生命の危機に直面し、経口摂取から経管栄養へ移行する。しかし、患者自身が自分の病状を受容できず、ギリギリまで経口摂取したいという思いがあると考えられ、本研究では、経管栄養へ移行することを患者自身がどのように受容しているのかを明らかにし、これからの患者援助に役立てることを目的とする。本課題の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑭ 申請番号10-18 7-東病棟看護師 新井由美の申請による人工呼吸器装着の筋ジストロフィー患者の外出・外泊の現状と展望
人工呼吸器を装着するデュシェンヌ型筋ジストロフィー(DMD)患者の外出・外泊について、外出・外泊届と、医療記録(看護記録含)より、その実態を集計し分析し解決すべき問題点を明らかにすることを目的とする。本課題の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑮ 申請番号10-19 7-東病棟看護師 長澤亜紀奈の申請による両前腕に発赤を繰り返す患者のスキンケアの検討

患者様の両前腕は、リネン・呼吸器回路などの外的刺激物が、長時間接触すると全体に発赤が生じる。スキンケアや軟膏類の治療によりある程度は改善するが繰り返して起している。患者様の発赤には外的要因の室温・湿度・外的刺激物・両前腕の発汗などが関与し、時に疼痛・搔痒感を引き起こすのではないかと考察する。本研究により、患者様の効果的な洗浄方法は何か、現在行っているスキンケアに着目し、より効果的な洗浄方法について検証する。本課題の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑯ 申請番号10-20 7-東病棟看護師 益子純一の申請による体位変換に満足のない筋ジストロフィー患者への関わり～体位変換方法の統一によるケアの向上を目指して～

筋ジストロフィー患者は、進行に伴い運動可能範囲が極限まで低下し、身体の拘縮や変形が著しいため、当病棟では、全介助にて体位変換を行う場合が多い。そのため、スタッフにより介助の手順等が変わり満足度に差が出る。体位調整においては看護間で情報を共有することで、ケアの統一を図り、体位変換への満足の上を得られると考え実施する研究である。本課題の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑰ 申請番号10-21 副看護部長 高野公子の申請による臨地実習指導者が捉える「学生の主体性」に関する基礎的研究

近年、看護学生や新人看護師の「主体性」の低さが指摘され、教員や臨地実習指導者が学生の主体性を育み、学習意欲を高める為の指導力の向上が求められている。そこで、本研究では新人看護師を育成し、看護基礎教育課程にある学生を指導する立場である臨地実習指導者を対象に、学生の「主体性」をどのように捉えているのか、さらに「主体性」を育成する為にどのような指導を行っているかを質的研究によって明らかにすることを目的とする。本課題の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑱ 申請番号10-22 神経内科医師 中山可奈の申請による人工呼吸療法施行神経筋疾患患者の長期入院例と在宅例の比較

人工呼吸療法施行神経筋疾患患者の長期入院例と在宅例とを、a群b群に分けそれぞれの情報を収集し、比較を行い、人工呼吸療法管理方法について検討する。本研究は、多施設共同研究である。本課題の妥当性について審議した。

審議結果：承認

平成22年度 第2回 臨時倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成22年9月8日(水) 15:00~15:05
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 中会議室
出席委員名	正田 良介、尾方 克久、田村 拓久、堀場 昌英、小櫃 孝夫、新井 秀一 植田 敏幸、飯野 和之、齋藤 隆宗、松村 麻利
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号10-23 神経内科医師 中山可奈の申請による在宅療養中の筋ジストロフィー患児に対する臨床心理学的アプローチ</p> <p>筋ジストロフィーの診断の過程は、介護者(家族)の心理的適応にネガティブな影響を与え、ストレスや抑うつが増大をもたらすと考えられる。昨年度の入院患者を対象とした筋ジストロフィー研究班の研究結果から、患者の家族機能の理解が、より望ましい告知のあり方への示唆を与えたと考えられた。本研究では、在宅療養中の筋ジストロフィー患者の家族へのアンケート及びPOMS™短縮版を用い、患者家族の実態把握と、メンタルヘルスの評価を行う多施設共同研究である。本課題の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p>

平成22年度 第3回 倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成22年10月20日(水) 15:00～16:00
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 中会議室
出席委員名	正田 良介、新井 秀一、松橋 綾子、青山 克彦、尾方 克久、田村 拓久、堀場 昌英、大塚 友吉、小櫃 孝夫、植田 敏幸、飯野 和之、江角 時子、松村 麻利
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号10-24 神経内科医長 鈴木幹也の申請によるパーキンソン病における腰曲がり病(camptocormia)についての臨床像・治験反応性の検討</p> <p>腰曲がり病は、パーキンソン病患者の日常生活(歩行・食事・トイレ・入浴など)を著しく障害する。その臨床像や治療反応性を明らかにすることは、パーキンソン病患者の診療において重要である。腰曲がり病を伴うパーキンソン病群と伴わないパーキンソン病群に分けて登録し、二群間で疫学的情報、臨床症状、検査所見、抗パーキンソン病治療への反応性について、統計学的手法を用いて比較検討し治療方法を導出することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題② 申請番号10-25 内科医長 木村琢磨の申請による終末期の神経難病患者に対する訪問診療中のコミュニケーションに関する遺族調査</p> <p>終末期の訪問診療においては、患者の自己決定や尊厳を重視する必要がある。しかし、終末期の神経難病患者は、言語的コミュニケーションが障害されることがあり、診療中のコミュニケーションには限界がある現状である。そこで、家族が同席した、終末期の神経難病患者に対する訪問診療中の様々なコミュニケーションについて調査をし、これらが、患者に有用であるか否かや、患者にどのような不利益をきたす可能性があるかについて検討する。本課題の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題③ 申請番号10-26 呼吸器疾患部門部長 堀場昌英の申請によるHIV/HBV重複感染における適切な治療の検討</p> <p>HIV/HBV重複感染では、従来本邦で経験してきたHBV感染症と比較し慢性化率が高い事が示されている。HIV感染症の治療ガイドラインではHBV感染症治療を必要とする場合にはTDF/FTC(3TC)にて治療することが推奨されている。HIV非合併HBV感染症とHIV/HBV重複感染では治療薬が異なることや、治療対象となる主としたHBVgenotypeが異なることから、現在の治療開始基準が必ずしも適切でない可能性がある。従って、より適切なHIV/HBV重複感染症例の治療を明らかにすることを目的とする。本課題の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題④ 申請番号10-27 3-2病棟看護師 長口由香里の申請による看護師における経験年数別コミュニケーションスキルの傾向と課題</p> <p>看護師においてコミュニケーションスキルは、患者・看護師の信頼関係を築き</p>

看護の質の向上を図り、チーム医療を円滑にするために重要であると考え。本研究では、当病院看護師のコミュニケーションスキルに対する自己評価の実態を明らかにし、専門職としてのコミュニケーションスキルを向上させることを目的とする。本課題の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑤ 申請番号10-28 7-南病棟副看護師長 武井紀子の申請による筋ジストロフィー患者の望む「心地よい体位」の研究

筋繊維の変性・壊死を主病変とし、進行性の筋力低下をみる遺伝性疾患である筋ジストロフィーの筋力低下は、食い止められておらず、筋萎縮や筋拘縮により運動機能が低下することで、自ら体を動かせなくなり、24時間臥床することが余儀なくされる。よって、看護師は患者の生活すべてにおいてケアが求められる。本研究では、筋ジストロフィー患者が望む「心地よい体位」を明らかにし、新人看護師や初めて筋ジストロフィー病棟で働く看護師が援助する際に活用することを、目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑥ 申請番号10-29 7-東病棟看護師 並木恭子の申請による人工呼吸器のアラームに対する看護師の認識調査

当病棟において人工呼吸器装着患者は63.1%を占め、そのうち39.4%がTIPPVを装着し、人工呼吸器は日常的に使用している。人工呼吸器のアラームは、機器そのものの異常や患者の状態変化を知らせるものであり、看護師がアラームの適切で迅速な対応を行うことは、患者の安全と安楽を保証し、事故防止に繋がる。本研究では、看護師の日中と夜間の人工呼吸器のアラームに対する認識を調査しその実態を明らかにすることで、事故防止に繋げることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑦ 申請番号10-30 10病棟看護師 萩原祐子の申請による指差し呼称取り組みに関するスタッフの意識と行動の変化

筋ジストロフィーは、筋萎縮の進行により関節の拘縮や変形があり、移乗時には打撲や骨折のリスクを把握し安全・安楽な介助が必要である。当病棟は38名の全患者が担送患者であり、入浴時は移乗から入浴まで全介助を行う為、注意喚起している。本研究では、入浴介助の移乗時に指差し呼称による安全確認を行い調査することで、スタッフの意識と行動が変化しより安全なケアにつなげることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑧ 倫理審査手順書にて記載されているとおり、課題が終了したとき、申請者は課題の進捗及び成果を、学術発表等の資料を添えて提出し、倫理委員会に報告しなければならないため、終了課題についての審議を行なった。

	<p>2課題の報告があり、各研究の終了での妥当性について審議した。</p>
--	---------------------------------------

審議結果：承認

平成22年度 第4回 倫理審査委員会議事録・概要

開 催 日 時	平成22年11月17日(水) 15:00～16:35
開 催 場 所	国立病院機構東埼玉病院 中会議室
出 席 委 員 名	正田 良介、新井 秀一、松橋 綾子、青山 克彦、尾方 克久、田村 拓久、堀場 昌英、大塚 友吉、小櫃 孝夫、植田 敏幸、飯野 和之、齋藤 隆宗、江角 時子、松村 麻利
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号10-31 3-1病棟看護師 齋藤正美の申請による長期療養神経難病患者の家族へのアプローチ</p> <p>長期療養神経難病患者の家族の思いと態度に、発病後の患者の在宅療養期間に関係があるのではないかと考えた。家族の生活を無視することなく患者が円滑に入院生活を送れるよう、看護師は患者だけでなく様々な患者家族に応じた関わりを持って行く必要があると感じている。そこで、患者家族の思いを知ることで患者への思いを共感し患者家族の思いに沿った看護援助を明確にすることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題② 申請番号10-32 8-1病棟看護師 中畑優衣の申請による重症心身障害児(者)病棟における口腔ケアに関する看護師の認識</p> <p>重症心身障害児(者)にとって、口腔ケアは口腔疾患の予防のみならず肺炎の予防にも有効と思われる。しかし重症心身障害児(者)では、開口障害や筋緊張拒否などにより、適切な口腔ケアが行えないことがある。そこで、現状を調査・分析し、問題を明確にすることを目的とする。本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題③ 申請番号10-33 8-2病棟看護師 浅子久美子の申請による重症心身障害児(者)の胃瘻トラブル改善のためのケア</p> <p>当病棟の入院患者に、胃瘻が造設されている方がいる。重症心身障害児(者)は、身体の変形・拘縮、体位や体動により、注入物の漏れや皮膚障害を発生しやすい。しかし、胃瘻の状態を統一した指標で評価したケアが確立されていない。本調査では、滋賀PEGネットワークの胃瘻評価スケール及び胃瘻ケアフローチャートに基づくケアを参考に、当病棟で活用できるフローチャートを作成し、患者のQOLの維持・向上を図ることを目的とする。本課題の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題④ 申請番号10-34 8-2病棟看護師 鈴木慎一郎の申請による重症心身障害児(者)における体動困難患者の効果的な体圧分散を考える</p> <p>当病棟の入院患者に、常時ベッド臥床状態の方がいる。変形、骨突出があり、褥瘡予防物品を使用し褥瘡予防に努めているが、明確な指標の基で評価したケアが確立されていない。本研究では、OHスケールと既往歴から褥瘡発生高リスク患者を選定し、看護師の介入前後の評価を行う。本調査では、身体への持続的圧迫に注目し、体圧分散測定器による体圧測定を行い、褥瘡予防物品を使用して</p>

患者の負担を軽減させることを目的とする。本課題の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑤ 申請番号10-35 10病棟看護師 杉本洋一の申請による筋ジストロフィー患者に最適なトイレ移乗の介助を目指して ～トイレ移乗の最適な指標について～ 筋ジストロフィー患者の移乗や座位保持に必要な残存機能に注目し、患者とともに共有化できるトイレでの移乗介助の指標を作成することを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑥ 申請番号10-36 10病棟看護師 杉本洋一の申請による筋ジストロフィー病棟における褥瘡発生好発部位とその原因・対策について

当病棟において、耳介や頸部などといった局所に褥瘡が発生した事例を取り上げ、それらの褥瘡が発生する要因を分析することで、予防策を明らかにし、褥瘡の発生の減少につなげることを目的とする。本課題の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑦ 申請番号10-37 10病棟副看護師長 倉持由美の申請による筋ジストロフィー病棟で働く看護師の葛藤から導き出された看護：看護の語りの中から

筋ジストロフィー病棟の看護師は、日々変化する病状を観察し、安楽な体位の調整や嚥下機能に応じた食事の選択、死に対する不安に耳を傾け、時には、やり場のない怒りや葛藤を受け止め、患者の日常生活が少しでも安楽であるよう努めている。本研究では、月1回開催している「筋ジストロフィーの看護を語る会」での、看護師の葛藤や語りから導き出された看護を明らかにすることで、筋ジストロフィー看護の方向性を示すことを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑧ 申請番号10-38 7南病棟看護師 梅津愛の申請による筋ジストロフィー患者の夜間のニーズ

当筋ジストロフィー病棟は、日常生活を全面的に介助に依存し常時臥床状態の患者が約過半数をしめている。また、患者が重症化し、多くが人工呼吸器を装着している。夜間は、2時間毎に看護師が巡回しますが、ナースコールが頻繁で、夜勤者が少ないため、すぐに対応することが困難な状況である。夜間にナースコールが多い背景には日中とは違う患者のニーズが存在しているのではないかと考える。本研究では、ナースコールの内容を整理し、ニーズと対応状況を明らかにすることで、患者のQOL向上や看護の質向上に活かすことを目的とする。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑨ 申請番号10-39 7南病棟看護師 鹿角亜紀子の申請によるナースコール対応における患者・看護師のストレス

当筋ジストロフィー病棟は、日常生活を全面的に介助に依存し常時臥床状態の

患者が約過半数をしめている。また、患者が重症化し、多くが人工呼吸器を装着している。入院患者の重症化にともない、看護内容が広範かつ複雑化し、ナースコールが増加してその内容が多岐にわたるため、必ずしも十分な対応ができていないと感じている。本研究では、患者および看護師のそれぞれの立場で、ナースコール対応についてどのように感じているかを調査する。本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

平成22年度 第3回 臨時倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成22年12月27日(月) 16:00～16:15
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 中会議室
出席委員名	正田 良介、青山 克彦、尾方 克久、田村 拓久、堀場 昌英、大塚 友吉 小櫃 孝夫、新井 秀一、松橋 綾子、植田 敏幸
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号10-40 主任栄養士 田中由美子の申請による重症心身障害児(者)の栄養管理の標準化(均てん化)に向けた研究</p> <p>医療の進歩により出生児の救命率は上がっている一方、重度の障害をもつ新生児の出生率も増加しており、準超重症児、超重症児の患者数は入所者ベースで年々増加している。また入所中の患者についても、約3割は経管栄養による栄養管理となっており、その患者数は今後益々増加していくことが予想される。</p> <p>本研究では、重症心身障害児(者)の濃厚流動食摂取者の栄養管理の状況を調査・検討を行い、重症心身障害児(者)の濃厚流動食摂取者におけるエネルギー量の適切な設定方法を明らかにすることを目的とする。本課題の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題① 申請番号07-12 臨床研究部長 尾方克久の申請による神経・筋疾患の研究基盤としての病理検体の確保と保存に関する研究</p> <p>今回の変更内容は、異動による分担研究者の変更について、本課題の妥当性を審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題② 申請番号09-21 臨床研究部長 尾方克久の申請による神経・筋疾患患者の人工呼吸に関連したインシデント等に関する調査</p> <p>今回の変更内容は、母集団の調査項目を明記し、別添1「人工呼吸療法患者リスト」のうち個人情報(ID,氏名)を除く情報とほぼ同じ内容を、母集団として調査するため、別添1を削除したことについて、本課題の妥当性を審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p>

平成22年度 第5回 倫理審査委員会議事録・概要

開 催 日 時	平成23年1月19日(水) 15:30～16:15
開 催 場 所	国立病院機構東埼玉病院 中会議室
出 席 委 員 名	正田 良介、新井 秀一、松橋 綾子、青山 克彦、尾方 克久、田村 拓久、堀場 昌英 小櫃 孝夫、植田 敏幸、飯野 和之、齋藤 隆宗、江角 時子、松村 麻利
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号10-41 1-1病棟看護師 酒井雄太の申請による看護師の家屋調査に関するアンケートを実施してみえてきたもの</p> <p>当リハビリテーション病棟では、自宅退院する患者さまが安全・安楽に過ごすために、医師、理学・作業療法士、看護師が自宅へ行き、生活環境や住宅改修を確認する家屋調査を行っている。</p> <p>本研究では、家屋調査に対しての看護師の認識と課題を明らかにし、家屋調査の役割や目的を明確にすることを目的とする。</p> <p>本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題② 申請番号10-42 7-南病棟看護師 石川怜奈の申請による5S活動の取り組みにおける看護師の意識調査～輸液管理事故防止に取り組んで～</p> <p>当病棟の輸液管理におけるインシデント発生の要因は、確認不足だけでなく輸液準備をするスペースの確保・作業困難など環境の問題があると考えられ、当病棟では、5S活動の取り組みを実施し、管理方法について検討を行った。</p> <p>本研究では、今後も5S活動を継続していくために、病棟スタッフに意識調査を行い、ケアの質向上に結び付けることを目的とする。</p> <p>本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題③ 申請番号10-43 10病棟看護師 栗野友博の申請による鼻マスク使用患者の皮膚トラブルの要因から必要な観察項目を明らかにする</p> <p>当病棟の鼻マスク使用患者さまは、マスクの周囲に圧力がかかりやすく、皮膚トラブルを起こしやすいが、マスクによる皮膚トラブルがあるケースとないケースがある。</p> <p>そこで、鼻マスクを使用している患者さまに対し、皮膚状況(肌の状態)、マスクの使用種類、栄養状態、呼吸状態を調べ、これらの情報から観察項目の標準化を図り、看護師間が統一した観察を行うことで、皮膚トラブルを早期に発見し、より良いケアにつなげることを目的とする。</p> <p>本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果：承認</p> <p>議題④ 申請番号09-40 研究生 木藤則一の申請によるパソコンその他の情報機器に関する調査</p> <p>倫理審査手順書にて記載されているとおり、課題が終了したとき、申請者は課題</p>

の進歩及び成果を、学術発表等の資料を添えて提出し、倫理委員会に報告しなければならないため、課題終了の妥当性について審議した。

審議結果：承認

【報告事項】

平成22年12月27日 第3回臨時倫理審査委員会にて承認された課題について、報告を行った。

平成22年度 第4回 臨時倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成23年1月27日(木) 15:00～15:15
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 中会議室
出席委員名	正田 良介、青山 克彦、尾方 克久、田村 拓久 小櫃 孝夫、新井 秀一、松橋 綾子、植田 敏幸
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号10-44 医療安全管理係長 武藤直子の申請による患者の特性に応じた転倒・転落要因の同定に基づくアセスメントシートの改良</p> <p>国立病院機構にて、統一された「転倒・転落アセスメントシート」に関し、現在の評価項目では、患者さまの疾病の多様化により、患者さまの状態を適切に捉えて評価することが困難である。</p> <p>本研究では、国立病院機構の全施設共通で使用する「転倒・転落アセスメントシート」をもとに、患者さまの特性に応じて転倒・転落の要因を同定し、「転倒・転落アセスメントシート」を改良することを目的とする。</p> <p>本研究の妥当性について審議した。</p> <p>審議結果：承認</p>

平成22年度 第5回 臨時倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成23年2月16日(水) 15:00～15:15
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 中会議室
出席委員名	正田 良介、新井 秀一、松橋 綾子、青山 克彦、尾方 克久、田村 拓久、堀場 昌英、大塚 友吉、小櫃 孝夫、植田 敏幸、飯野 和之、齋藤 隆宗
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号10-45 臨床研究部長 尾方克久の申請による神経・筋疾患の研究基盤としての病理検体の保存に関する研究</p> <p>筋ジストロフィーおよび神経難病を多く診療している当院の特性を鑑み、当院で病理解剖(剖検)を実施された神経・筋疾患患者を対象に、脳・筋肉・脾臓の一部を液体窒素等を用いて凍結し、象低温槽で保存を行い、研究資源バンクとして組織化することで、神経・筋疾患患者の研究に供して病態解明や治療法開発といった医学の発展への貢献を図ることを目的とする。</p> <p>当院剖検番号、死亡時年齢、性別および診断名を国立精神・神経センターの剖検検体情報ネットワークに中央登録してデータベース化し、神経・筋疾患の病態解明や治療法の開発といった研究に資するようにする。</p> <p>本研究の妥当性について審議した。</p> <p>審議結果：承認</p>

平成22年度 第6回 臨時倫理審査委員会議事録・概要

開催日時	平成23年3月3日(木) 15:00~15:15
開催場所	国立病院機構東埼玉病院 中会議室
出席委員名	小櫃 孝夫、新井 秀一、松橋 綾子、青山 克彦、尾方 克久、田村 拓久、堀場 昌英 大塚 友吉、植田 敏幸
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号10-46 臨床研究部長 尾方克久の申請による筋強直性ジストロフィーの初発症状および初診時主訴</p> <p>筋強直性ジストロフィー(MyD)は、多彩な症候を呈する遺伝性疾患である。ミオトニアや筋力低下といった骨格筋症状が症候の中核をなすが、発症と進行が緩徐であるとともに、症候があっても患者の自覚が乏しく患者があまり困らないので、診断されにくい傾向にある。MyDと関連が強い合併症のため様々な診療科を受診し、原因不明で多数の疾患を抱えた患者として扱われることがある。</p> <p>本研究では、MyD患者の初発症状と初診時主訴、および初診における受診動向を明らかにでき、MyDの適切な診断と医学管理導入のための方策を検討する基礎的資料とすることを目的とする。</p> <p>本研究の妥当性について審議した。</p> <p>審議結果：承認</p>

平成22年度 第7回 臨時倫理審査委員会議事録・概要

開 催 日 時	平成23年3月22日(火) 11:30～12:00
開 催 場 所	国立病院機構東埼玉病院 応接室
出 席 委 員 名	正田 良介、松橋 綾子、尾方 克久、田村 拓久、植田 敏幸
議題及び審議結果を含む主な議論の概要	<p>【審議事項】</p> <p>議題① 申請番号10-47 内科医長 木村琢磨の申請による訪問診療中のコミュニケーション法に関する研究</p> <p>訪問診療において、医師は、「家族と医師のみのコミュニケーションの場」を設ける必要があると考えていますが、どのような際に行うべきか不明である。また、終末期患者の家族は、非終末期患者の家族に比べ「家族と医師のみのコミュニケーションの場」を、より強く希望している可能性があるが、不明な現状である。</p> <p>本研究では、現状を明らかにすることで、根拠を持って「家族と医師のみのコミュニケーションの場」を設けることができることを目的とする。</p> <p>本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果： 承 認</p> <p>議題② 申請番号10-48 リハビリテーション科医師 川上途行の申請による神経筋疾患・摂食嚥下状況スケールの開発</p> <p>神経・筋疾患では摂食嚥下障害がほぼ発生し、評価・介入が必要となる。神経・筋疾患の場合、嚥下障害が進行性であるが、嚥下訓練の適応になる症例は少ない。経口摂取が困難になってくると濃厚流動を経口で補助栄養として使用し、経管になっても経口摂取は続行する。末期になると唾液の吸引が必要となり、これを反映して、神経・筋疾患患者の現状にあった摂食・嚥下状況のスケールを作成し、そのスケールを用いて、各疾患ごとの摂食・嚥下状況の特徴を明らかにすることを目的とする。</p> <p>本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果： 承 認</p> <p>議題③ 申請番号10-49 リハビリテーション科医師 川上途行の申請による神経心理学的検査と日常場面での認知機能との比較</p> <p>脳卒中のリハビリテーションにおいて、日常生活動作の自立には認知機能が大きく関わっている。認知機能の評価である神経心理学的検査結果と、実際の日常生活動作場面での認知機能は、異なることが少なくない。</p> <p>本研究では、認知機能評価の代表的な検査の点数と日常生活動作上の認知状態を現すFIM認知項目の点数を比較し、検査が実際の日常生活動作上の認知機能を反映しているかを検討する。</p> <p>本研究の妥当性について審議した。</p> <p style="text-align: center;">審議結果： 承 認</p>

議題④ 申請番号10-50 薬剤師 鳥海真也の申請によるHIV陽性者における腎障害に関する患者要因の検討

わが国におけるHIV陽性者の腎臓病有病率は、14.9%と報告されていて、薬剤師の役割として、患者の腎機能や危険因子を日頃から意識し、腎障害を起こしやすい薬物や腎排泄型の薬物についての注意を怠らないようにしなければならない。

本研究では、HIV陽性者を対象に腎機能について解析を行い、腎機能障害と関係のある因子を探索することで薬剤管理指導業務を行うための一助となることを目的としている。

本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑤ 申請番号10-51 10病棟看護師 佐藤里美の申請による筋ジストロフィー患者の退院支援～ハイリスク患者の自立支援の関わりから～

事例の患者さまは、介護する家族もなく気管切開をして人工呼吸器を24時間装着しており、残存機能も指先がかすかに動く程度である。しかし、患者さまが強く退院を希望されている。本研究にて、必要な環境整備の確立と地域連携へとつなぐことができれば退院という道筋が整うことが確認できたための、事例報告である。

本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認

議題⑥ 申請番号10-52 副看護部長 高野公子の申請による看護学生の臨地実習における看護倫理場面での指導の実態～臨地実習指導者の立場から～

臨地実習では、看護倫理に関して看護師と同様に看護学生にも責任が問われる。各教育機関において、臨地実習前に倫理面の教育を行い実習を開始しているが、学生は、無意識に日頃の生活習慣や看護学生の持っている価値観などが言葉・態度面などに表出されることがある。本研究では、臨地実習の場における看護学生の看護倫理面に対する指導の実態を明らかにし、今後の看護倫理教育の示唆とする。

本研究の妥当性について審議した。

審議結果：承認